

東芝は差別争議の全面一括解決をはかれ

公安警察出身者・インフォーマル組織を使った

特異な労務管理を改め 差別をやめよ

東芝の差別是正争議は十年目をむかえ、全面一括解決に向けた運動を強化しています。

労働組合の弱体化をねらった組合活動や思想信条による差別をなくす取組みは、一九八八年に全社的に結成された労働運動を強める東芝の会で準備され、差別是正争議を闘う組織として東芝の職場を明るくする会が結成されました。

一九九五年に神奈川県内四事業所十名の会員が第一次労働委員会申立てを行いました。

翌九六年には全国十二事業所の四五名が差別是正社長申入れをおこなって運動を広げ、二〇〇一年には全面勝利命令を勝ち取りました。

神奈川県労委と中央労働委員会の審問を通じて、東芝が公安警察出身者を多数雇い入れて、秘密組織・東芝扇会の指導・育成にあたらせ、非民主的な労組役員選挙で扇会員を執行部に送り込んで組合を支配し、申立人らへの監視と差別を行ってきたことが立証されました。

昨年から九名が第二次地労委申立てに立ち上がり、東京・神奈川の三十名が第二次差別是正社長申し入れをおこなって、差別是正争議の早期全面一括解決をめざしてたたかっています。

会社が扇会（インフォーマル組織）や職制組織を使い労組に支配介入

東芝の違法な労務管理の実態は、本社勤労部がまとめた二二〇ページの秘密文書や東芝扇会機関誌「おおぎ」、PMD C 課長教育資料など多数の証拠で裏付けられています。

東芝京浜事業所では、六〇年代から「京浜同志会」や扇会の支部である「竹馬会」などを使って労組役員選挙に介入してきました。

今年の京浜同志会総会はホテル聚楽で行われ、事業所長ら会社幹部と労組委員長ら三役、元労組委員長の横溝氏（現横浜市議・総務部参事）らの「労使癒着ぶり」が話題になりました。

東芝本社勤労部の秘密文書
タービン工場の記録
同志会の活用
「...部下の指導育成に努める一方、日共の組織活動に対抗し...取り組んでいる」
労組役員選対策
「選挙期間中、活動を低下させるため党、民青を業務出張させた。」
「代議員42名中シンパ1名が当選したほか体制派が圧勝した」

今も続く警備公安警察人脈
初鹿真：扇会生みの親育ての親
藤原正一：88年東芝扇会顧問
志田八：小向工場、勤労部主査
中田雅明：志田の後任・横浜事業所
現・自己啓発の会事務局



東芝の職場を明るくする会のホームページより
<http://www.kki.ne.jp/akaruku-tsb/>

東芝扇会から「自己啓発の会」へ 秘密組織の活動は、いままも継続

労働員会で会社側証人の堀岡元労政担当部長や金井勤労企画担当課長らは「扇会は、自己啓発の会に変わった」と証言しました。しかし、職場の人の目から隠れて工場・地域・全社的に連携した秘密活動を、いまま変わらずに継続しています。実態は扇会と同じです。

東芝は、インターネット・情報化社会の流れにさからい、今後も秘密組織の網の目を職場に張りめぐらせていくつもりなのでしょうが？

東芝争議の全面一括解決で

人権が守られる職場と

組合員が主人公の労働組合を

私たちは、一人ひとりの人権が大切にされ、組合活動や思想信条による差別、男女差別、派遣労働やパート労働の差別のない明るい職場をつくるために活動しています。

いま大企業・財界は、職場の中から憲法で保障されている自由と人権を踏みじり、憲法改悪とアメリカと一緒に戦争する国にする路線をつきすすんでいます。



会社は、差別をテコにして労働組合を会社のいいなりにしてきました。働く者の権利を守り差別をなくす闘いへのご支援を、心からお願い致します。

二〇〇四年 十月・十一月

人権を守り差別のない明るい職場をつくる東芝の会 (東芝の職場を明るくする会)

Tel & Fax : 044-533-1408
〒212-0024 川崎市幸区塚越2-225 安伸ビル